

イギリス・ロンドン市内の高齢者施設でボランティア活動 & ハッティンガム大学を訪問 期間：2016/09/11~22

近江信次（健康科学コース4年）岩崎望（健康科学コース4年）田中孝志郎（健康科学コース4年）



ボランティア施設での活動の様子



ハッティンガム大学訪問の様子



渡航先での活動内容

イギリスにおける高齢者施設の訪問し、高齢者施設の現状の把握およびボランティアを通じた高齢者との交流。
ハッティンガム大学を訪問しクリニックの診療の様子を見学。
同大学のモファット先生の研究チームとのミーティングは発表を通じた交流。

目的を達成できたか

訪問した高齢者施設はさまざまな程度（ex. ほぼ健康者の施設もあれば、認知症が入っている人がほとんどである施設もあった）であった。全体として、高齢者がやりたいことをやれるように高齢者自身の主体性を尊重しているように感じた。
高齢者は明るく楽しんでいる人が多いように見えた。
日本における高齢者施設との相違がみえ、よい経験になったように思う。

グローバルな視点とは何か

今回の活動ではイギリスの特定地域の小さな高齢者施設を訪問しており、グローバルな取り組みである一方、ローカルな取り組みでもある。グローバルな視点とは世界におけるさまざまなローカルな問題に注意を払い包括的な見方をする事だと思う。

将来の進路決定へどう影響したか

将来の進路決定に直接的に大きな影響を与えるものではないが、この研修を通じて高齢者福祉、超高齢化社会の問題や、海外渡航、海外留学への関心がさらに強まった。

目的以外に学んだ点、反省点

高齢者との交流に関しては英語力が不足していることや訛が入っていることもあり思うように意思疎通ができないことが多々あり、コミュニケーション能力および英語力の向上を課題と感じた。

後輩へのアドバイス

海外研修では研修内容以外のことにしても他国の雰囲気や文化に触れることができ、自身の糧になることが多いと思う。特に海外渡航経験のない人には一度行ってほしいと思う。

研修支援制度に望むこと

海外渡航の経験のないものにとっては海外研修はハードルの高いものであり、主体的に強く興味に沿った研修を行うことは困難に思う。興味をひく研修プランをアレンジしていただいたほうが研修に参加しやすく有意義な研修になると思う。